

イラストレイテッド泌尿器科手術 第2集 図脳で学ぶ手術の秘訣

加藤晴朗 著

＜書評者＞ 藤岡知昭（岩手医科大学教授・泌尿器科学）

若い泌尿器科医の皆さまの大部分は、優れた執刀医となることを目標に研修に励んでいると思います。小生もそのような目標を持った1人であり、初老となった今でも手術前には何ともいえない小さな興奮を覚えます。

加藤晴朗著『イラストレイテッド泌尿器科手術 第2集—図脳で学ぶ手術の秘訣』を拝読しました。4年前に出版された同名手術書（今となっては第1集）との出会いと同様に、著者の豊富な経験と出版・絵を描く情熱と努力にただただ感服しました。今回の第2集は、著者の言葉を借りると「甘い蜜に誘われて」「不満足感に対する不満足力」が出版の原動力ということですが、前回以来の基調である「手術は暗記である」という主張が頑固なまでに貫かれ、「図脳」の根幹であるイラスト・絵もより鮮明で力強く描かれており、進化を感じさせられます。すなわち、膜構造の認識による、より正確な解剖が実感できます。また、さりげなく描かれている術者の左手（場面によっては右手）、筋鉤や鉗

子が手術の流れに重要なアクセントとなっていることが印象的です。さらに、前回の第1集で省略したことが心残りであったとするトラブル・シューティングに関しても、今回はしっかりと記載されて貴重な情報・知恵を提供していますし、多くのコラムからは著者の人柄がにじみ出ています。

すべての手術は、1つひとつの手術操作・場面の連続で構成されており、これらの手技・過程を合理的に順次完遂することで手術を成功裡に終了することが出来ます。本書では、著者自身が実際に経験した豊富な手術例より、各手術における重要な局面を絵に描きつつ解説しており、著者の手術記録としての側面を持っています。読者は、絵に描かれたおのおのの場面を暗記し、それらをつなげていくことで著者と同様な手術・手技の追体験が成立するというわけです。この手術過程・手技の記憶・暗記には、その場面の絵を介する理解、すなわち「図脳」が重要であるというのが著者の手術に対する基本姿勢と思います。本書

は術中写真を並べた手術書やビデオとは異質のできあがりであり、手術手順に従い各術野を描いた独特な雰囲気により著者のこだわりを認識できます。

本書の構成は、第1章 膀胱の手術、第2章 骨盤内および後腹膜疾患、瘻孔、尿膜管疾患の手術、第3章 前立腺の手術、第4章 陰茎・尿道の手術、第5章 腎および副腎の手術より成っています。研修中の若い泌尿器科医の皆さんは、特に“膀胱の手術”、“前立腺の手術”および“腎および副腎の手術”の章が解剖の理解を深め各自の手技の向上に役立つと思われる読みやすい内容です。また、“陰茎・尿道の手術”および“骨盤内および後腹膜疾患、瘻孔、尿膜管疾患の手術”の章は遭遇する機会の少ない難題が多く、疾患の解決方法の糸口が参考になる内容で、ベテランの先生方にも有益な情報が満載されています。

手術大好きな泌尿器科医の皆様は、貴重な1冊として、この第2集を推奨します。

●A4 頁352 2011年
定価 15,750円
(本体 15,000円＋税5%)
[ISBN978-4-260-01103-7]
医学書院刊